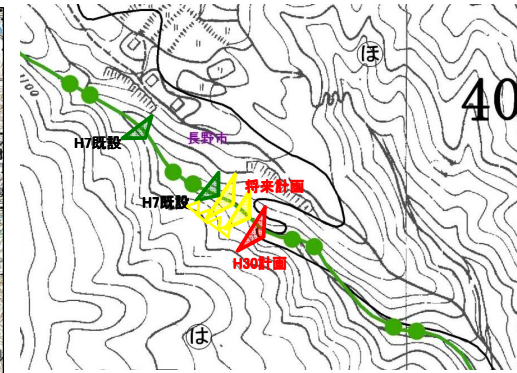
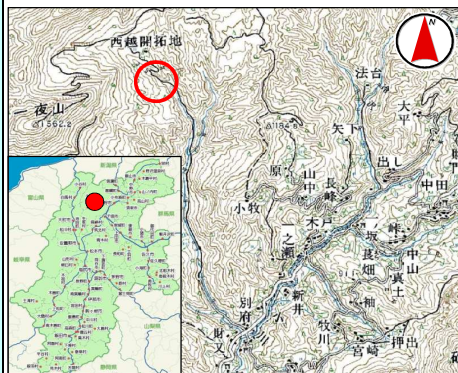


(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等					
事業毎の通番		8		市町村名		長野市			
事業目的		当該箇所は平成29年8月発生豪雨災害により土石流が発生し、溪流沿いの市道及び下方の県道36号線に土砂が流出した。渓床内には未だ不安定な土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂が下方へ流下する恐れがあることから、新たに谷止工護岸工を施工し、溪流の安定を図る。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け		4-1 県土の強靱化 (災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法			
関連する事業、計画等									
保全対象・範囲 受益対象・範囲		市道 2km							
着手年度		平成30年度		事業期間		4年間			
完成年度(見込み)		平成33年度		費用対効果		6.6			
全体事業内容 (主な工種)		谷止工 3個 護岸工 28m		事業費 (千円)		135,000			
				国庫		67,500			
				その他					
				県債		60,000			
				一般財源		7,500			
事業効果		市道 2km							
直接的効果 (定量的・定性的)									
間接的効果 (定量的・定性的)									
必要性		○人家戸数: ○公共施設数: ○災害時要援護者関連施設の有無: ○保安林・林業用施設:				市道 なし 保安林(6%)		評価 C	
重要性		○過去の災害履歴: ○交通遮断による地域経済への影響: ○地域防災計画上の位置付け:				あり 平成29年8月豪雨災 影響度中 溪流末端部周辺に集落有り なし		評価 B	
効率性		○費用便益比(B/C): ○事業期間: ○工法等の比較検討: ○流域の総合調整:				6.64 4年間 (H30~H33) なし あり		評価 B	
緊急性		○流域の地形、地質: ○平均渓床勾配(平均山腹勾配): ○下流の堰堤等の整備状況: ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:				第3紀層泥岩 平均渓床勾配 20° あり なし		評価 A	
計画熟度		○事業情報の共有: ○地域の取り組み: ○地域の合意形成: ○住民との協働:				地元住民他と調整済 地域住民から事業計画に対し要望がある 現地打合の際、周辺関係者との合意形成が図られている なし		評価 B	
所管課意見		H29年8月の豪雨災害により土石流が発生し、溪流沿いの市道及び下方の県道に土砂が流出した。渓床内には未だ土砂が堆積していることから、今後の降雨等により市道の被災や下方の人家や県道へ土砂が流出する恐れがあることから、対策工を実施する必要がある。				採択状況		総合評価	
						○		B	
技術管理室意見		所管課の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図、構造図等】



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



H30谷止工計画位置: 上流に堆積している不安定土砂を谷止工を施工することで抑止する



保全対象: 市道(平成29年8月豪雨により土砂が流出)

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地域は、新第3紀層の泥岩地帯であり、固結度が緩く、また風化しやすい地質である。また、当該溪流には沿いには市道117号線が通っており、下流には財又地区の集落が存在する。また当該地では平成7年に発生した豪雨災害により治山工を実施した経緯がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該溪流は、平成29年8月に発生した豪雨災害に土石流が発生し、下流に土砂が流出した。渓床には未だ土砂が堆積しており、不安定な状態にある。そのため、地元住民から新たな治山施設設置の要望があがっている。
③事業説明等の経緯	8月13日に現地調査を行い、地元住民に方針を説明し了承を得ている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	このままでは豪雨等により、不安定土砂が土石流化するおそれがあるため、早急な対策が必要。
⑥地域活性化への影響と配慮	渓流内の不安定土砂の下流への流出により、市道の維持管理に影響を及ぼすおそれがある。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度
北緯: N 138° 00' 10" 00
東経: E 36° 43' 40" 00